

等力和

栗原和

以上共に古は亘摩郡に在り、

深澤和

勝沼より東の山間にある諸村をいふ、鎌倉以後の名とみえたり、今深澤といふ一叢戸あり、

於曾和

村名今に存れり

御座和

熊野村熊野神社、寛正三年及び天文十八年の棟札に甲斐の國御座の郷横井村云々とあり、權現鎮座に依て起れる名ならん、横井は今本村の小名に存れり、

玉井和

東郡

又玉井の里と云り、續日本紀延暦八年の條下に、山梨郡人云々改本姓古爾等爲玉井とみえたり、竹森村に高森玉森武森玉宮明神あり、黒水晶高六尺許なるを神體とす、又玉室、或は社中に水晶石英を産す、玉井と云池あり、郷名の起る所なりと云、

玉の井の氷の上に見ぬ人や月をば秋のものといひけん

式子内親王

慈鎮

松尾和

天文永祿以來の文書に、村名を斥て、妄りに郷とすること、一時の風なり、以下准之、

鹿野川和

又狩野川、或は神内川を作れり、村名なり、又加納とも作けり、

青沼和

古昔は巨麻郡に屬く

鍛冶田和

惠林寺

大八幡

八代和

郡名村名共にあり

八代和

十六和

名抄

に

石禾和

昔時は山梨郡西郡の郷名なり、石禾の文字、今は石和と作けり、石澤伊澤にも作る。○中略

東は石和川の古道を限り、鵜飼川の西にて、今は八代郡小石和筋に屬ける河内小石和等の十村も、其頃は山梨郡の中郡へ地續にて、共に石和郷なる故に、大石和小石和の名はありしならん、